

山梨の美酒を味わう

ACTIVE KUMIAI

山梨県酒造組合

山梨県酒造組合(小宮山光彦会長)は、10月14日「山梨の日本酒 ふぁいとじやばん」を二部構成で開催した。

一部では、全国利き酒大会の山梨県予選会を甲府駅ビル「エ克蘭」で230名が参加し開催した。7種類の日本酒の味や香りから同一の銘柄を当てるマッチング方式で、制限時間15分以内で行われた。上位2名が、10月21日に東京で開かれた全国大会に県代表として出場した。

二部の試飲会では、山梨県内の蔵元7社が熟成した自慢の酒4種類計27点が持ち寄られた。今年は、各蔵元が醸造に使用する仕込み水や酒粕を活用して開発したラスク等も振る舞われた。

清酒の販売数量は年々減少し、10年前の6割程度しかない。



全国聞き酒大会山梨県予選会

県内においても、地酒を取り扱う飲食店が少ないため、甲府駅周辺の地酒取扱店と銘柄を記載した地図を、周辺ホテル等を中心に配布した。

小宮山会長は、「地酒は、地域の文化です。個性豊かな地酒を通して、出会いや人の繋がりを作ってもらいたい。名水で醸した山梨の日本酒を是非味わって欲しい。」と語った。



酒談義に沸く会場